

こがねやまさんきん
黄金山産金遺跡

涌谷町教育委員会 福山宗志

所在 地 宮城県遠田郡涌谷町涌谷字黄金山、黃金宮前、猿手山地内

立地環境 大崎平野東端、籠岳丘陵南麓で西に向かって開く標高 27 ~ 36 m の谷間

発見遺構 磐石建物

年 代 8世紀中葉～10世紀

遺跡の概要

黄金山産金遺跡は、籠岳丘陵南麓で西に向かって開く狭隘な谷間にあり、蛇行しながら西流する宮前川（通称：黄金沢）のほとりの南側斜面を削って黄金山神社の境内地としている場所が遺跡の中心である。約 500 m 南には同時代の遺跡である日向館跡、城山裏土墨跡などが分布している（第 1 図）。

1. 調査の概要

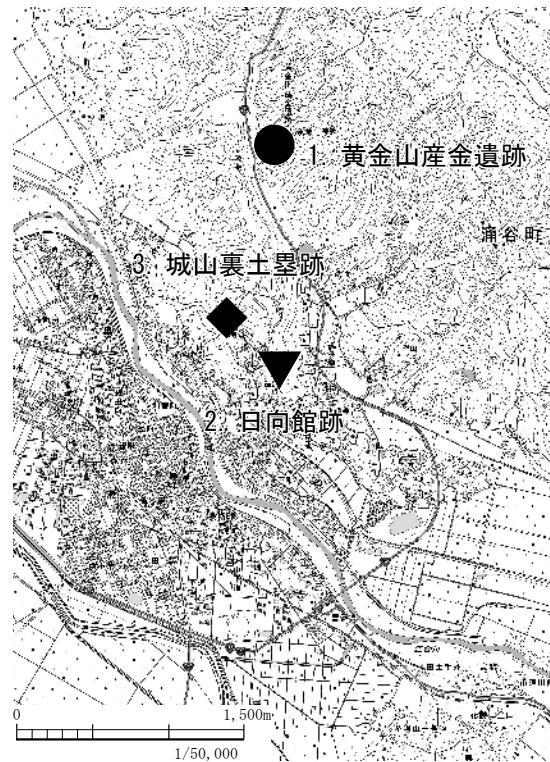
黄金山産金遺跡が注目されるようになったのは、江戸時代、続日本紀や万葉集などに書かれている「天平の産金地・陸奥国小田郡」や「みちのく山」を探そうとする探求に始まる。文化 7 年（1810）、国学者・沖安海は当地を踏査し、古瓦が出土する状況等から黄金山神社の地が天平の産金地であり、古代の神社跡ではないかとの論文（涌谷町 1994）を著し、荒廃していた黄金山神社の復興事業を展開した。

近代以降になると、国語学、鉱床学、古代文学など、各界の研究者がこの沖安海説を支持して検討をすすめ、当地域は古代・小田郡の範囲にあり天平の産金地としても妥当と考えられるようになる。地元の郷土史家佐々木敏雄は、神社で出土した古瓦に「天平」と書かれたものがあることに注目して広く遺跡の紹介につとめ、内藤政恒はこの「天平」瓦を宝珠片と位置付け（第 3 図）、遺跡が仏堂（六角円堂）跡であり、天平産金を契機に建立されたものと推定した。（内藤 1955、涌谷町 1994 再収）

こうした研究を背景に、昭和 32 年（1957）、涌谷町教育委員会では東北大学文学部考古学研究室に調査を依頼し発掘調査が実施される。社殿および後方の玉垣附近から版築基壇上に磐石建物 1 棟と社東脇の斜面から建物に葺かれていた瓦が散布する状況を発見する。立地状況なども合わせ、内藤政恒が推定した仏堂一宇が建立されていた遺跡であることを確認した。また調査中、宮前川での砂金採取も実施され、砂金が現在も産出する事を確認している（涌谷町 1960）。平成 4 ~ 5 年（1992 ~ 1993）、遺跡の公園整備事業に伴い、社西脇の宮前川周囲の確認調査を実施したが、基本河川堆積層で構成され、遺構の存在は特に確認されていない（涌谷町 1996）。

2. 調査の成果

黄金山産金遺跡での調査成果は、磐石建物 1 棟のみである（第 2 図、写真 2）。建物は約 3.3 m 間隔で並んだ根石 4ヶ所のみ残存しており、平面形の確認は困難であったが、近年、隅切軒平瓦（第 3 図）の存在などから六角円堂の復元プラン案が提示されている（進藤 2010）。



第 1 図 黄金山産金遺跡の位置

出土遺物では、軒瓦が重弁六葉蓮華文軒丸瓦と偏行唐草文軒平瓦の組み合わせに限定されることから、天平 21 年（749）以降に建立された一時期限定の仏堂跡として注目されている（第 3 図）。瓦当文様や籠書内容の再検討が行われる（福山 2010、佐々木 2021）と共に、多賀城跡第Ⅱ期や陸奥国分寺跡・国分尼寺創建期の所用瓦系譜を段階的に理解するための鍵となっている（柳澤 2022）。

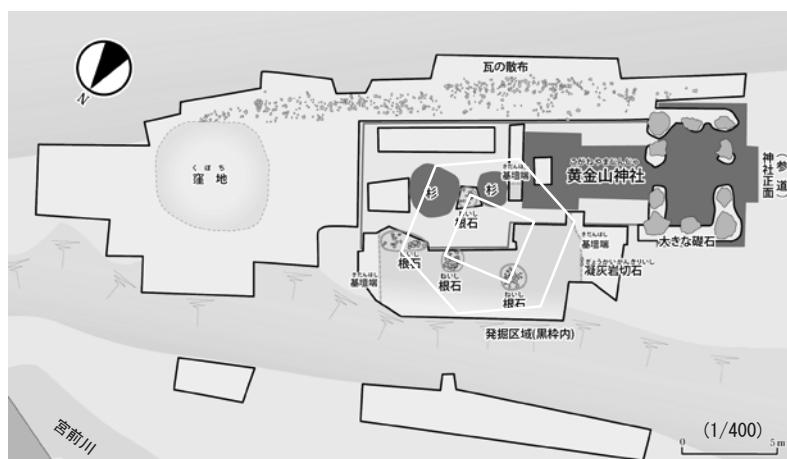
3.まとめ

黄金山産金遺跡は、発掘調査で明らかとなった「仏堂跡」、延喜式卷 10 に見える「黄金山神社」、宮前川で採取できる「砂金」が、古代・小田郡の範囲内にあたる同一遺跡内に所在する事実により、昭和 42 年（1967）、奈良時代の産金関係遺跡として国史跡に指定されている。

天平 21 年（749）4 月 1 日、東大寺に行幸した聖武天皇は、陸奥国産金を報する宣命（第 12 詔、第 13 詔）を発し、産金慶事を神仏双方による「貴き大瑞」と位置付けた。これを受けた陸奥国小田郡の現地に仏堂を整備、神社と共に顕彰した場所が黄金山産金遺跡なのである（福山 2017）。

関連文献

- 1 佐々木茂楨 2004 「宮城発掘物語 黄金山産金遺跡」『宮城考古学』第 6 号
- 2 佐々木竜郎 2021 「謎の「天平」宝珠瓦」『温故知新東北』株式会社三協技術広報誌第 5 号
- 3 進藤秋輝 2010 「天平産金記念堂考」『坪井清足先生卒寿祈念論文集』下巻
- 4 内藤政恒 1955 「天平産金地私考」『南都仏教』2
- 5 福山宗志 2010 「黄金山産金遺跡の軒平瓦」『北杜一辻秀人先生還暦記念論集一』
- 6 福山宗志 2017 「陸奥産金と家持」『官人 大伴家持—困難な時代を生きた良心』
- 7 柳澤和明 2022 「陸奥国分寺・尼寺創建から多賀城Ⅱ期造営への連続性」『日本考古学』第 55 号
- 8 湧谷町 1960 『天平産金遺跡』
- 9 湧谷町 1994 『黄金山産金遺跡—関係資料集一』
- 10 湧谷町教育委員会 1996 『黄金山産金遺跡・黄金山南遺跡』



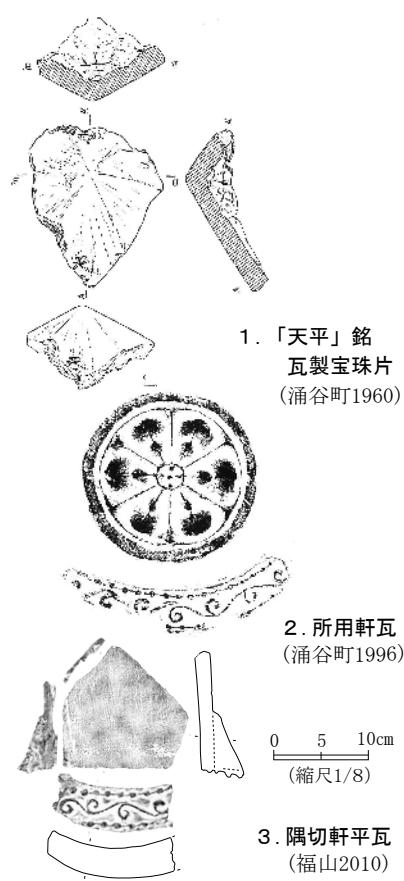
第 2 図 昭和 32 年の発掘調査区域実測図と六角円堂復元プラン
(文献 3・8 を基に再トレース)



写真 1 延喜式内 黄金山神社(拝殿)



写真 2 六角円堂復元予想図



第 3 図 主な出土瓦